

# UBE三菱セメント 夏のリコチャレ2024 の紹介

## (セメントってどんなもの?)

〈リポーター、報告者〉  
UBE マシナリー株式会社  
運搬・破碎技術部 破碎機 Gr  
山下 真理

### 1. はじめに

UBE三菱セメント（以下MUCC）社は、イベント「夏のリコチャレ※2024」（※理工チャレンジ（以下、「リコチャレ」））を同年8月6日にUBE三菱セメント研究所（宇部）及び宇部セメント工場で開催した。この取り組みは、内閣府男女共同参画局が女子中高生・女子学生が理工系分野に興味・関心を持ち、進路の選択肢を広げる応援をすることを目的として2005年から始まっており、MUCCは「リコチャレ応援団体」として積極的に参加している。

当社（UBE マシナリー）はこのイベントを取材し、MUCCのリコチャレ担当や理系女子社員及び参加された学生にもインタビューさせて頂いた。イベント内容を含めこの場を借りて紹介させて頂く。

### 2. インタビュー内容

#### 【2.1 MUCCリコチャレ担当への質問】

質問（以下、Q）： リコチャレイベントの開催目的は？

回答（以下、A）： 目的は2つあります。1つ目の目的は、次世代を担う方々の活躍を応援するためです。当社は、企業理念として、「最高の品質を最高の技術とサービスで提供し、地球の未来を支えつづける。」ということ掲げています。地球の未来を支えつづける企業として、次世代育成、社会貢献の観点から、この取り組みに賛同し、このたびイベントを開催しました。また、リコチャレのHPにも記載がありますが、日本では大学の理工系の学生に占める女性割合（理学系

27.9%、工学系 16.1%）や、研究者の採用に占める女性割合（自然科学系、理学系 16.3%、工学系 14.5%）が低い状況です。当社はセメントメーカーであり、理系出身の社員が多く在籍していますが、進路選択の段階で理系を選択する女子学生が少ないことが影響しているからか、理系の女性社員は少ない状況です。理系出身者が多い企業として、女子学生の興味関心や進路選択の幅が広がる一助になればと考えています。

2つ目として、当社のことを多くの方に知ってもらいたいということです。当社は、2022年4月に営業開始した新しい会社であり、学生も含めた一般の方への知名度が低い状況です。イベントを通して、セメントや当社について知っていただくきっかけになればと考えています。

(Q)： イベント開催は誰からの発案ですか？

(A)： 発案は広報室の担当者からのBottom Upです。研究所や工場、人事部など社内から多くの応援を頂き、スムーズに企画を進める事ができました。当社の両株主会社（UBE、三菱マテリアル）でもリコチャレに参画していることから本取り組みを知り、2024年3月に応援団体として参画したので、夏のリコチャレイベントには初参加です。それ以前は、研究所（宇部）では、地域の小学生向けのイベントを開催したことがありましたので、その経験が生かせると考えました。

(Q)： 開催準備にあたって苦労された事は何でしょうか？

(A)： 初めての開催であるため、イベントの

内容決定や参加者の募集など社内外の調整に苦労しました。関係各所の協力を得て、本日無事に開催できましたが、特にご参加いただく方の募集に当たっては課題も多く残りましたので、次回以降改善をしていきたいと考えています。イベントの内容については主に研究の分野（化学反応）を取り扱おうと考えましたが、参加される皆さんが何に興味があるのか、どこまで伝えればよいのか、を、主催する社員と共に悩みました。

（Q）： 学生の皆さんへ向けての一言をお願いします。

（A）： UBE三菱セメントは、社会インフラに携わりたい、社会貢献をしたい、新しいことに挑戦したいという思いを持った皆さんが活躍できる会社です。企業理念に「挑戦と変革」を掲げ、今よりもっとワクワクする未来をつくるために、セメント会社の枠を超えて私たちは挑戦を続けます。皆さんもぜひご自身の興味関心を育み、挑戦をして、驚くような未来や、驚くような自分の成長を作り上げていきましょう。

## 【2. 2 リコチャレイベントの内容】

・セメント工場について／座学，バス車内からの見学（プレヒーター，キルン等）（写真1）



写真1. 座学によるセメント工場の説明

・セメントを使った実験／コンクリートの流動性調整実験から、その調整には化学反応が用いられ、技術・ノウハウも沢山ある事を知る（水ではなく、

減水剤や増粘剤、アルコールを混ぜたらどうなる？）（写真2）。



写真2. 実際にセメントを使って実験風景

・超速硬セメントでコースター作りも行った（写真3）。



写真3. 手作りコースター

・研究所のお仕事紹介，座談会（写真4）



写真4. 参加者と理系女性社員との懇談

## 【2. 3 実験を担当された女性社員への質問】

（Q）： 何年入社ですか？ MUC Cに入社さ

れた動機は？

(A)： 2017年入社です。高校時代は文系科目が得意で、理系科目はとても褒められた成績ではありませんでしたが、それでも数学や化学の問題が解けたときの達成感や原理原則をひとつひとつ理解していく面白さがどうしても諦められず、先生や両親の心配をよそに、そのまま理系大学に進学しました。大学時代の専攻は理学部の地球科学科でした。鉱物に関する研究で身に着けた無機化学の知識はセメントでも生かせるかもしれないと思い、セメントメーカーに就職しました。

(Q)： 今の仕事は何を担当されていますか？

(A)： 就職してから7年、ずっと研究開発業務に従事しています。例えば、私はセメントの深海における耐久性調査に取り組んできました。これは様々な研究機関との共同研究プロジェクトとして行われ、これまでに多くの成果(論文等)を出しています。その他にも、ドイツの大学への留学と博士号の取得や、国際学会を含む様々な学会への参加、大学生時代に達成できなかった国際ジャーナルへの論文投稿など、多くの人力を借りながら、私一人ではなしえなかった経験をさせてもらっています。

(Q)： 入社前のMUCCのイメージと入社後の実態は如何でしょうか？

(A)： 会社の規模(大きさ)の割には自由度が高そうだと感じて入社しました。実態は、仕事で提案、企画する機会をもらい易く、自分発信の意見を聞いてもらえ、上下関係無くフラットに考えを話し合える職場です。

(Q)： 現在の仕事の魅力や面白さは何ですか？

(A)： 自分の立てた仮説を実験や分析を通じて、ひとつひとつ実証していけることが楽しいです。特に仮説が間違っていた時、予想しなかった結果が得られたときに始まる“謎解き”のような時間が好きです。また、様々な分析設備を使ったデータ取りも、どんな結果になるだろうかといつ

もワクワクしています。頭を悩ませることも多いですが、何とか導き出した答えを論文として世に発表し、社外の研究者の方々にも興味を示してもらえた時はとても嬉しいです。

(Q)： 将来やりたいことがありますか？

(A)： 今までは会社の方針や指示による『受け身』での対応が主でしたが、今後は『自分発信』で出した案を通して、それに取り組んで行きたいです。

(Q)： 今回のイベントに対する感想や、学生の皆様に一言をお願いします。

(A)： 印象的だったのは「企業の研究開発に興味があります」「どのような学位が必要なの?」「理系に進みたい」といった意欲的な言葉を参加者から多数いただいた事であり、主催する側としても大変有意義な経験になりました。

セメント業界もまだまだ女性の数が少なく、入社した頃は男女比のバランスの悪さを感じたこともありましたが、しかし、世界を見ると、この研究分野で活躍する女性研究者の数の多さに驚きます。その中には非常にパワフルで著名な研究者も多く、誰にでも挑戦できる分野である事は証明されています。そもそも身の回りのインフラで広く利用されているセメント、コンクリートに興味を抱くのに性別は関係ないはずで、男女比は気にせず、みなさんが日頃抱く興味関心をとにかく大切に育み、様々な分野で挑戦していかれることを楽しみにしています。

#### 【2.4 参加者からの声】

・普段行けるところではない場所に入れてとても興味深かったです。

・研究職について詳細に聞いてよかったです。MUCCでの研究職の面白さが分かりました。

・見学させていただいて工場の様子を知り、実験をしながらセメントの凄さに気づきました。

・(理系女性社員との懇談会で)進路に関してのお話を聞いて役に立ちました。また参加したいで

す。

・セメントが社会に貢献し、生活に欠かせないものだとして改めて感じることができました。

### 3. おわりに

今回の取材、インタビューを終えての感想を述べる。

私も女性社員として現在 UBE マシナリーという機械製造、サービス業の会社に勤務している。MUCC社と同様に圧倒的に男性社員の割合が多いが、昨今、女性技術系社員が徐々にではあるが、増えてきており会社全体の雰囲気も変わってきていると感じる。職業や職場は性別で選ぶものではなく、各人の持つ才能や能力を如何に発揮し、輝かせることができるかで選ぶべきものであり、このようなイベントは理系女子学生（生徒）の将来の選択肢を広げる意味でも非常に有意義であると感じた。

以下は内閣府の男女共同参画局【リコチャレ】のホームページ URL である。興味のある方はご参照頂きたい。

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>

以上